

<h3>今年度の指導の重点</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実と学習習慣の確立を図る。 ・規範を重んじ、自分の判断で自律的に正しく行動する力を育てる。 ・自他の生命を尊重する心を基盤に豊かな情操を育てる。 ・個性の発見を促し、自己実現の達成を図る。 	<h3>津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組</h3> <ul style="list-style-type: none"> □学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 C 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 C 】 年度末【 】
---	--

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 ◎ 国語、数学、理科ともに平均を下回っており、苦手と思われるような設問では、無回答率が高くなっている。</p> <p>○国語A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文脈の中における語句の意味の理解、接続詞の働きについての理解、漢字の読み、慣用句の意味については、一定の成果が見られる。 ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことは、県平均を上回るものと下回るものがあり、語句により正答率に差が見られる。 ・漢字を正しく書く、目的に応じて文の成分の順序や照応構成を考えて適切な文を書く等の記述の設問では、県平均に比べて無回答率が高い。 <p>○国語B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択肢のある設問では、無回答率が低く、意欲的な面が見られる。 ・質問の意図を捉える、話の展開に注意して聞き必要に応じて質問するの設問では、一定の成果が見られるが、他の設問では正答率は県平均を下回っており弱さが見られる。 <p>○数学A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線上の整数の読み取り、指数の計算、単項式の計算、式の値を求める等の設問では、正答率から一定の成果が見られる。 ・文章を読み不等式に表す、等式の変形、割合、1次関数に関する設問等では、県平均を下回っており、特に、関数に関する設問では無回答率が高い。 <p>○数学B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算結果を求める、道のりを求める設問では、県平均と同程度または上回っており、一定の成果が見られる。 ・他の設問では、県平均と比べ、正答率は下回り、無回答率が高くなっており、弱さが見られる。 <p>○理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の体のつくりや毛の特徴の知識を活用する、神経系の働きに関する設問では、県平均を上回り一定の成果が見られる。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分には良いところがある」「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」に対して肯定的に捉えている生徒が県平均を上回っている。 ・「人の役に立つ人間になりたい」に対して「当てはまる」と解答した生徒は県平均に比べかなり高い。 ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「1日あたりどれくらいの時間勉強しますか」に対して、「あまりしていない、全くしていない」と解答した生徒が県平均に比べかなり多い。 ・「読書」に関しても、「あまりしていない、全くしていない」と解答した生徒が県平均に比べ多い。 ・「放課後、週末の過ごし方では、学習をしていると解答した生徒は県平均を下回っており、家族と過ごしたりテレビやゲームをして過ごしていると解答した生徒が県平均より高い。 ・「あいさつ」は、全体的に県平均を下回っているが、「近所の人に対してのあいさつ」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と解答した生徒が1年生は100%であり、2年生でも県平均を上回っている。 ・「地域の人と関わる」「地域の行事に参加する」に対し「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と解答した生徒は県平均よりかなり高く、「ボランティア活動に参加した」生徒もかなり多い。 ・数学、理科ともに、「勉強は大切だと思う」や「数学ができるようになりたい」と回答した生徒は、県平均を上回っている。 ・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と解答した生徒も、県平均を上回っている。 ・理科の授業での実験や観察に勉強では、ほぼ県平均を上回っている。 ・「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と解答した生徒は県平均を下回っている。

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、年間を通じて漢字学習に取り組んでおり、定期的に小テストなども行うことで成果につながっていると考えられる。 ・数学では、補充学習の時間を設定したり、自主学習プリントを活用したりして、計算問題の復習に取り組んだことで、計算の正答率につながったと考えられる。 ・理科では、実験や観察を取り入れ、またICTを活用するなどの授業の工夫により、生徒の意欲・関心につながっていると考えられる。 ・自主学習プリントを活用する生徒も徐々に増加してきている。 ・スマホ等の使用については、警察等による指導やノーメディア週間の取組などを行っており、意識・理解は広まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、文の成分の順序や照応、構成を考えて書く、文章を読み内容を整理して書く等、読み解力や書く力に課題がある。 ・数学では、関数領域に課題があり、特に変域・増加量についての理解が不十分である。また、不等式や連立方程式等文章を読み解き、立式する力が不十分である。 ・理科では、条件を指摘したり、活用したりするなど自分の考えをまとめて表現することに課題がある。 ・スマホ等の使用に関して、ノーメディア週間以外での使用時間が長い生徒の割合が多く、また深夜に利用している生徒もいる。 ・家庭学習の時間が全般的に少ない。家庭でテレビ等の時間が多い。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業改善 ・研究授業(授業改革推進員の指導・助言) ・指導の仕方の工夫(言い方・やり方) ・協同学習の取組	・本年度末まで。 (2学期末に検証を行い、3学期は検証結果を活かした工夫を行う。)	・全教員による授業改善のポイントの共通理解をする。 ・全教員による指導の仕方の工夫の共有化をする。	・2学期中に研究所業を3回行う。(各学年1回)授業づくりの時点から授業推進員のしどろ・助言をいただき、授業改善するポイントを明確にしておく。 ・研修等、指導の仕方の工夫をしたことを情報共有する場を設定する。					
既習事項の整理が生徒の身につくための工夫 ・補充学習 ・自主学習プリントの活用	・本年度末まで。 (2学期末に検証を行い、3学期は検証結果を活かした工夫を行う。)	・自主学習プリントを5教科準備する。 ・生徒の自主学習プリント活用率が60%以上になる。 ・補充学習の時間を設定、実施する。	・各教科の担当者に東京データベースから復習プリントを選んでいただき、各教科12、13枚程度の自主学習プリントを準備し、各教室へ置く。活用に関しての声かけ等の工夫を行う。 ・放課後10分間(3年生は25分間)の時間を設定し、補充学習を行う。					
家庭学習の定着と充実 ・課題の出し方の改善 ・授業の内容の振り返りができる課題の工夫 ・課題提出に関する評価の仕方の工夫	・本年度末まで。 (2学期末に検証を行い、3学期は検証結果を活かした工夫を行う。)	・全教員による、各教科ごとの課題の出し方についての情報の共有化をする。 ・課題提出に関する評価の仕方を改善する。(生徒への見える化、表彰等)	・各教科の担当者からの課題の出し方についての情報を集約し、全教員で情報共有する場を持つ。 ・課題提出に関する評価の仕方を生徒への見える化、表彰等を行うなど、改善し、改善点を共通理解する場を					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<ul style="list-style-type: none"> ・県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取組 ・家庭学習の手引きの共有化 ・「ノーメディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家庭で見直す機会を作る。(勝北ブロックで同期間に取り組む) ・①靴揃え ②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の地域の奉仕活動や行事への参加についての理解や協力 ・ノーメディア週間の取組の理解と家庭での声かけや協力